

法政大学 通信教育部
(スクーリング)

**「経済学入門B／経済学入門Ⅱ」
第8回講義ノート**

担当教員：ブー・トゥン・カイ (Vu Tuan Khai)

第2部 マクロ経済学の基本モデル

本： p.157 ~

1. 消費関数
2. GDPの決定
3. 投資と金利
4. 貨幣市場と金利
5. 財市場・貨幣市場の同時均衡
6. より一般的な貨幣需要関数の分析(発展)

GDPと金利の決まり方

6章（後半）

本： p.171 ~

投資と金利

第3節

投資と収益・利益

- 3つの町に出店する投資計画を考える。
 - 表6.2: 売上高や投資収益、収益率を示す。
 - 各場所への投資額: 100ずつ。
- 投資資金は銀行から金利2%で借りる。
- 企業の目的: **利益**(収益－利払い)の合計の最大化。

CHART

表 6.2 投資と収益率

出店場所	投資額	売 上	投資収益 (=売上－投資)	収益率 (=投資収益/投資額)
A 町	100	106	6	6%
B 町	100	104	4	4%
C 町	100	101	1	1%

p. 172

企業の投資行動と金利

- 総利益を最大化したい企業：利益がプラスになるような場所すべてに出店する。
- 出店する条件：投資収益が利払い費(2)を上回る
こと、つまり**収益率が金利(2%)を上回る**こと。
- C町は収益率1%が金利を下回るため出店(投資)しない。
- 出店(投資)が行われるのは**A町**と**B町**のみ。

出店場所	投資額	売 上	投資収益 (=売上－投資)	収益率 (=投資収益/投資額)
A 町	100	106	6	6%
B 町	100	104	4	4%
C 町	100	101	1	1%

(表6.2 再掲)

投資と金利の関係

- 投資の条件: 収益率 > 金利
 - 金利が2%の時: A町とB町に投資 (投資額 = 100 + 100 = 200)。
 - 金利が5%に上昇: A町のみに投資 (投資額 = 100)。
- このように、投資は**金利上昇により減る**。

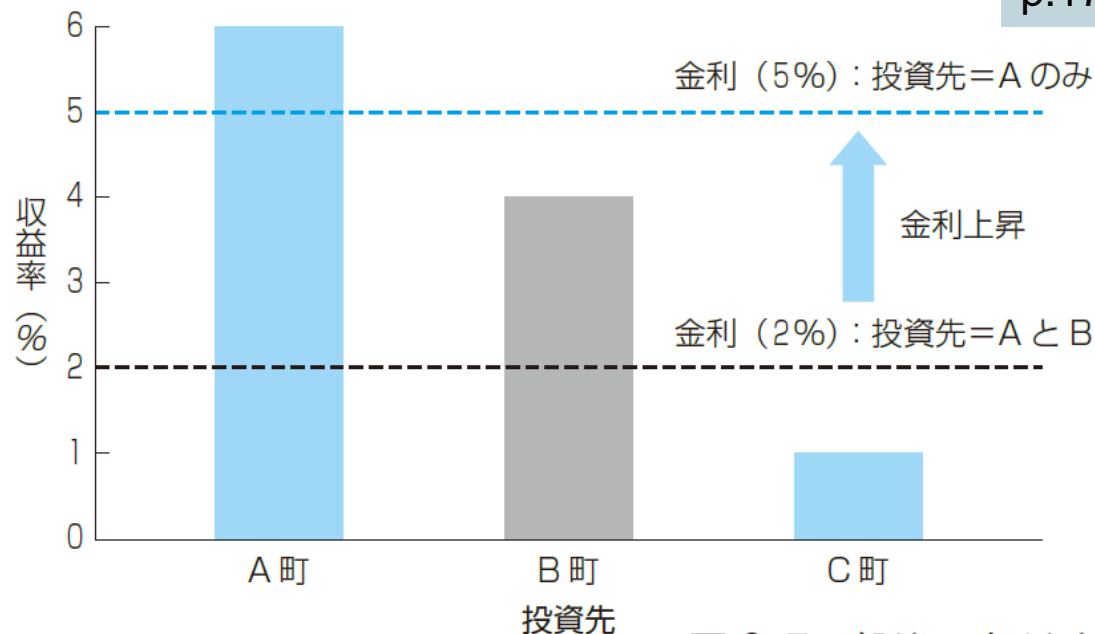


図 6.7 投資の収益率と金利の関係

投資関数の導出

- 個々の企業の投資は金利が上がると減少。
- 金利と投資との負の関係は国全体の投資についても成立。
- 国全体の投資 I と金利 r との負の関係を式で示したものを**投資関数**といい、 $I(r)$ とあらわす。
 - 簡単のため、1次関数 $I(r) = b - dr$ を仮定。但し $b, d > 0$.
 - 定数部分 b ：**独立投資**

POINT 6.7 投資と金利の関係

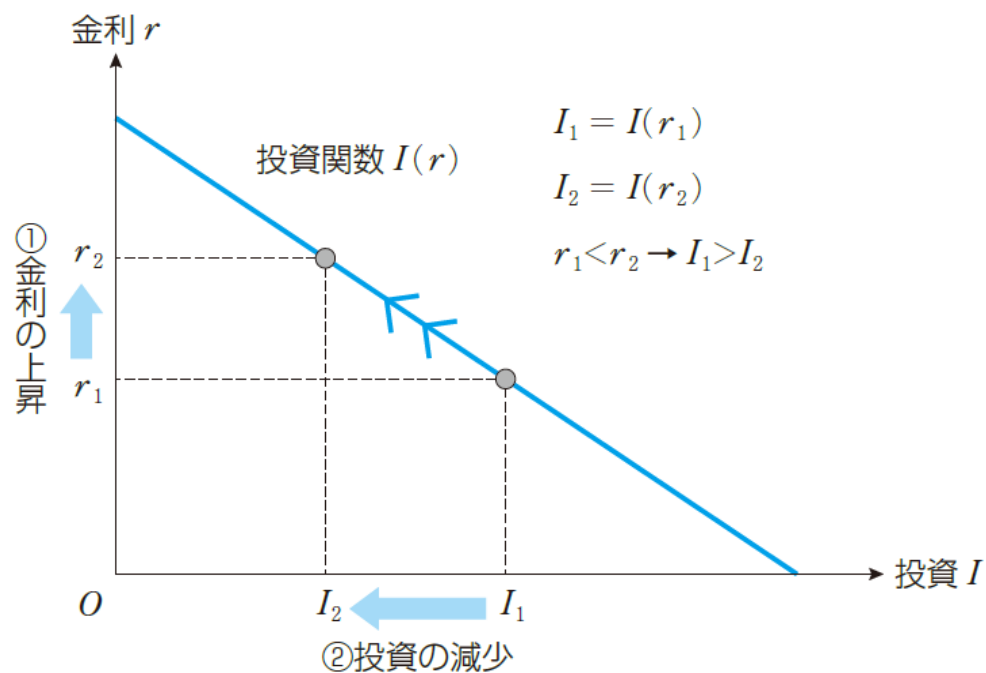
投資は金利が減少すると増加する。

投資関数のグラフ

CHART

図6.8 投資関数

p. 173



投資関数：金利の減少関数

本： p.174 ~

貨幣市場と金利

第4節

貨幣需要・貨幣供給

- 経済主体が貨幣を取引する場を**貨幣市場**という。
- 貨幣供給量(M)：中央銀行が決定すると仮定。
- 貨幣需要(L)の種類
 - **取引**需要: 財やサービスの決済のための需要。
 - **資産**需要: 富の貯蓄手段としての貨幣への需要。
- 金利は貨幣保有の**機会費用** (※)。したがって金利が上がると貨幣需要は減少する。
 - (※)の説明：1円があるとし、債券で持つならば金利に等しい利子収入が得られるが、貨幣で持つとこの分の利子は得られない。したがって、金利は貨幣保有の機会費用。

貨幣市場の均衡

- 金利 r の減少関数としての**貨幣需要関数**： $L(r)$ 。
 - 貨幣市場において貨幣需要関数 $L(r)$ と貨幣供給量 M が一致する状況を**貨幣市場の均衡**という。
 - 貨幣市場均衡における金利 r^* を**均衡金利**という。
- 均衡金利 r^* は以下の貨幣市場均衡式を満たす。

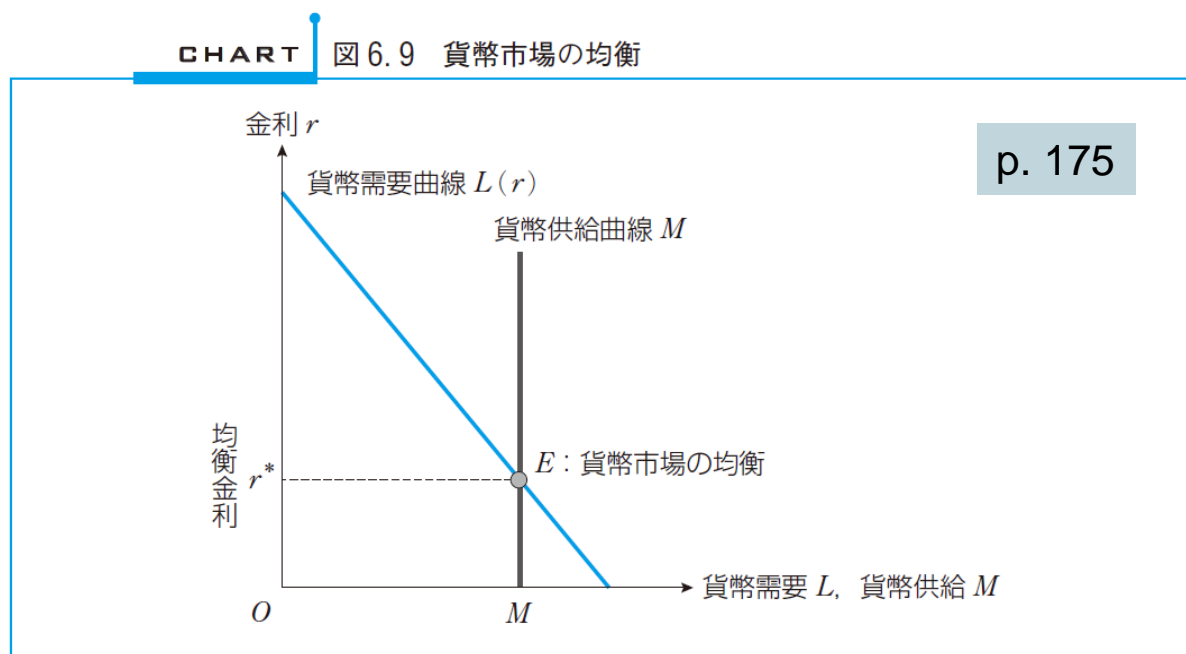
$$M = L(r)$$

POINT 6.8 貨幣市場での需給均衡

- 貨幣**需要**関数 $L(r)$ ：金利 r の減少関数
- 貨幣**供給**量 M ：中央銀行が決定
- 均衡金利：方程式 $M = L(r)$ により決定

貨幣需要曲線・貨幣供給曲線

- 金利を縦軸、貨幣量を横軸にとった平面の考察。
 - 貨幣需要：右下がりの関係(貨幣需要曲線)
 - 貨幣供給：垂線(貨幣供給曲線)
- 両曲線の交点が均衡を示す。



本： p.176 ~

財市場・貨幣市場の同時均衡

第5節

均衡GDPと均衡金利の決定

1. 貨幣市場で均衡金利 r^* の決定(図6.9)
2. 均衡金利の下で投資 $I(r^*)$ の決定(図6.10a)
3. 財市場で**均衡GDP** Y^* の決定(図6.10b)

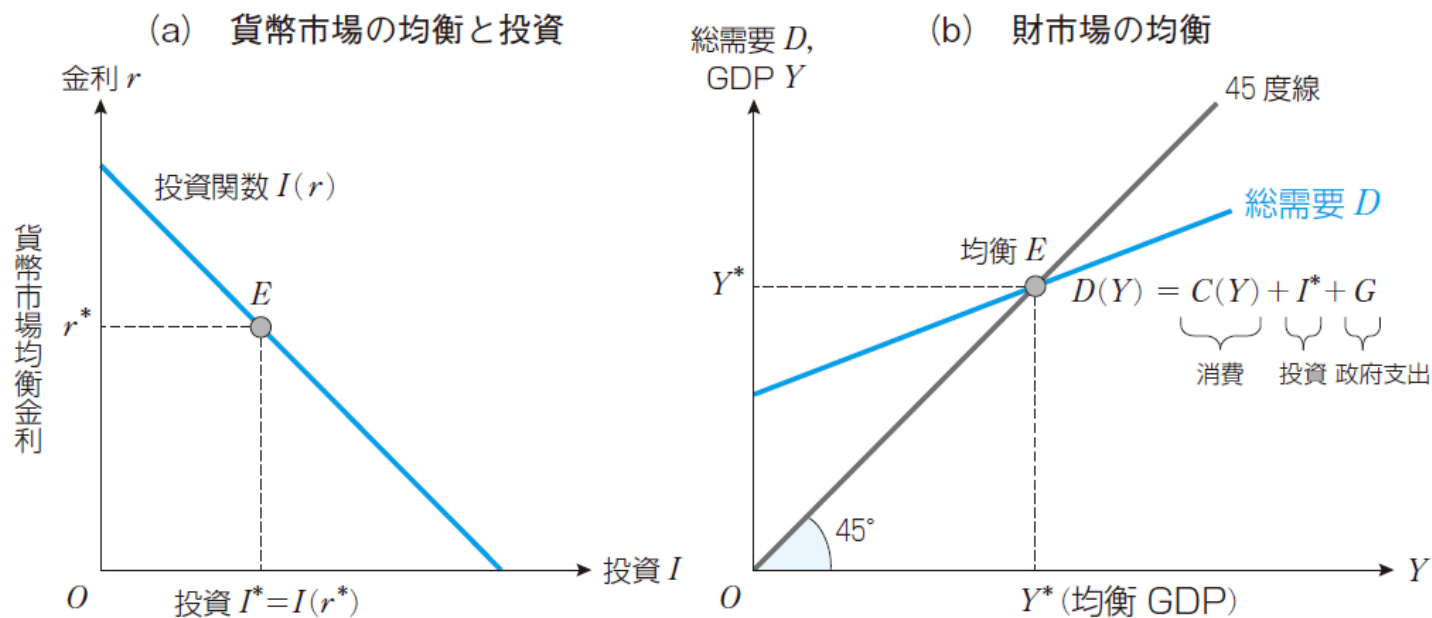


図 6.10 財・貨幣市場の同時均衡

p.177

金融政策の効果①：金利への効果

- 金融緩和政策を考える。

1. 貨幣供給量の増加。
2. 貨幣供給曲線が右にシフト。貨幣需要曲線に沿って**均衡金利が低下**。

- 金融引き締め政策の場合金利は上昇。

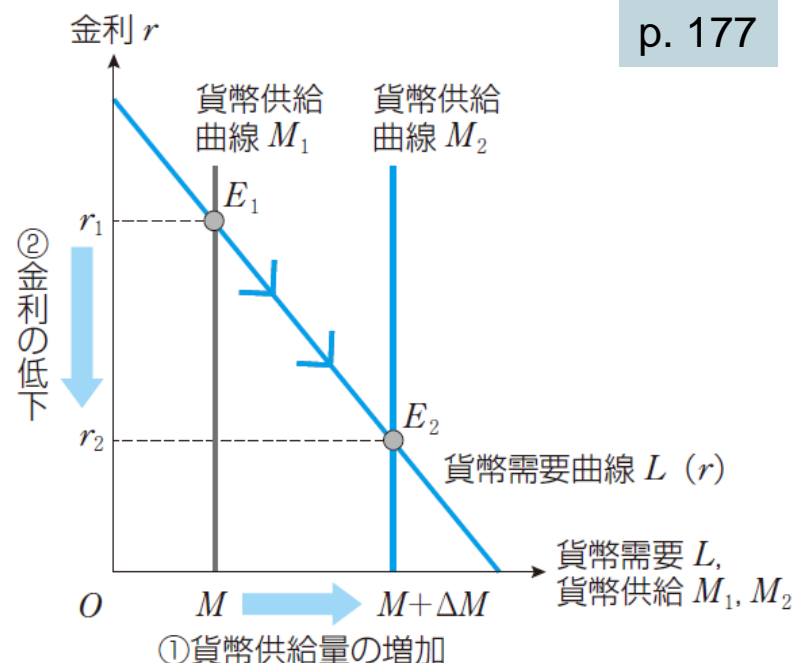


図 6.11 貨幣供給量の増加による金利の低下

金融政策の効果①(続)：投資への効果

1. 貨幣供給量増による
均衡金利低下(前頁)
 2. 金利 r の低下に伴う
投資 $I(r)$ の増加
- 金融引き締めの場合金利は上昇し、投資は減少。

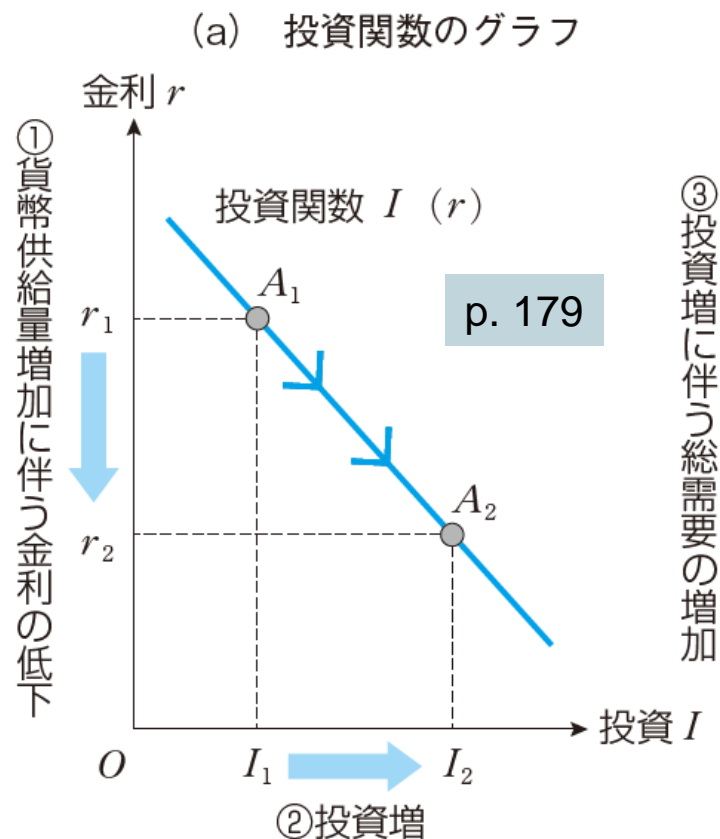
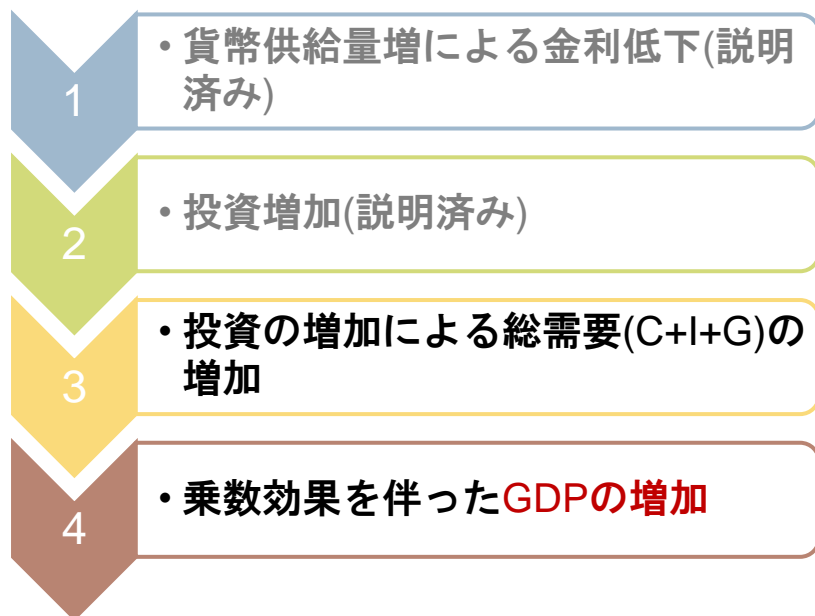


図 6.13 金利低下に伴う GDP の増加

金融政策の効果②：GDPへの効果



- 金融引き締めの場合 GDPは減少する。

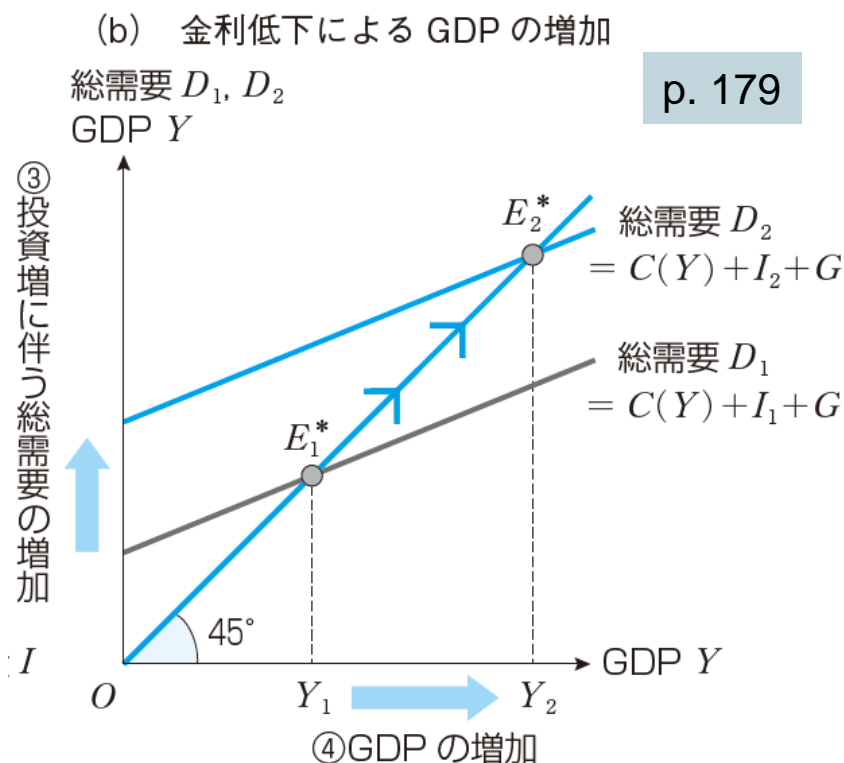


図 6.13 金利低下に伴う GDP の増加

金融政策の効果(まとめ)

- **拡張的経済政策**
 - 経済活動を活発化させGDPを増やす経済政策
 - 減税や金融緩和政策など
- **緊縮的経済政策**：拡張的金融政策の反対。
 - 増税や金融引き締め政策など

POINT 6.9 金融政策の効果

【金融**緩和**政策】貨幣供給量(M) $\uparrow \Rightarrow$ 金利(r) \downarrow
 \Rightarrow 投資(I) $\uparrow \Rightarrow$ GDP(Y) \uparrow

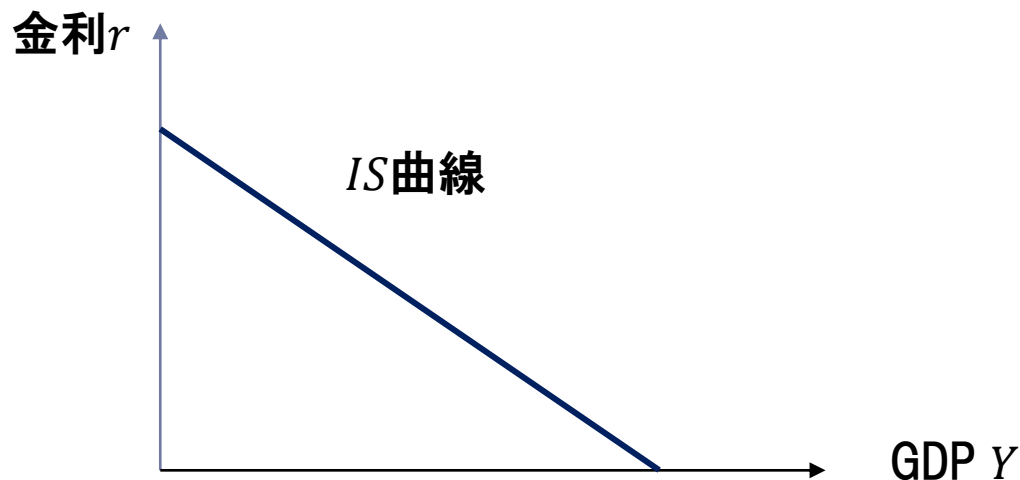
【金融**引き締め**政策】貨幣供給量(M) $\downarrow \Rightarrow$ 金利(r) $\uparrow \Rightarrow$ 投資(I) $\downarrow \Rightarrow$ GDP(Y) \downarrow

より一般的な貨幣需要関数の分析

第6節(発展)

IS曲線

- 金利 r が上がる \Rightarrow 投資 I 減少 \Rightarrow 財市場での均衡 GDP Y 減少。
- 金利 r を縦軸、GDP Y を横軸にとった平面($Y - r$ 平面)を考える。財市場を均衡させるGDPと金利との負の関係を示した曲線をIS曲線という。



貨幣需要関数の一般化

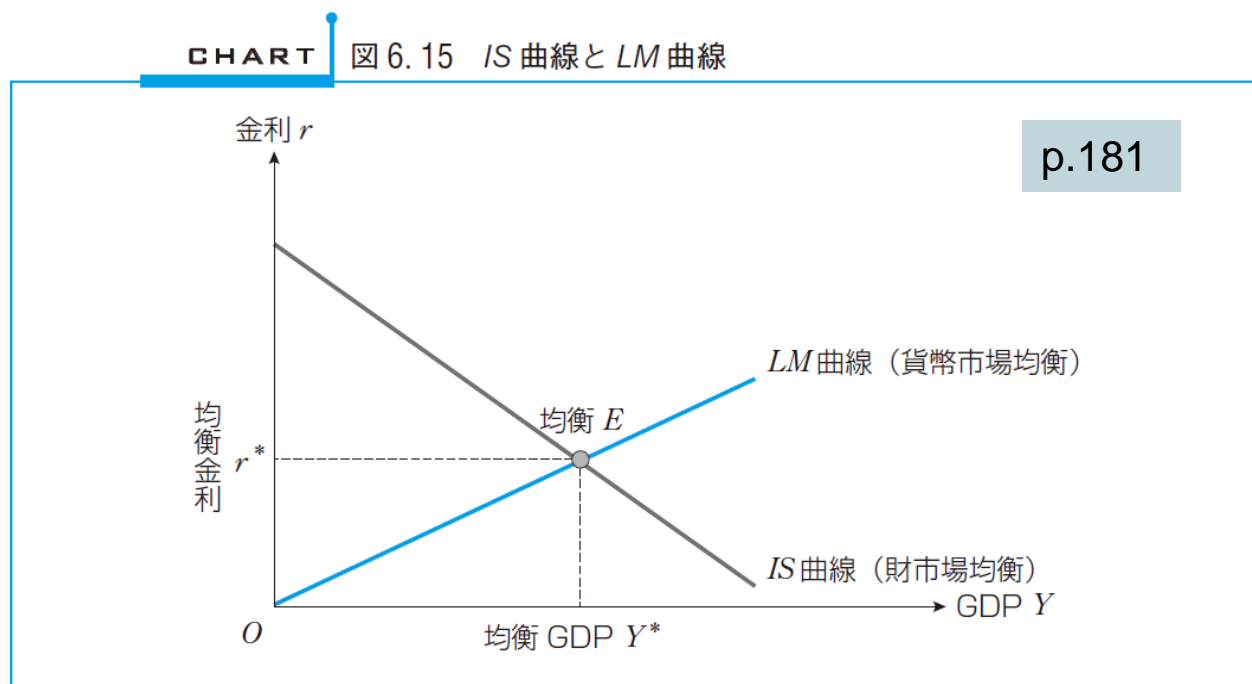
- GDPが増えると消費が増え、決済のための貨幣への需要(取引需要)が増える。
- より厳密には、貨幣需要関数 L は金利 r の減少関数かつGDP Y の増加関数になる。
- 貨幣供給量が一定の時、貨幣市場が均衡するような Y と r の値には正の関係がある。

$$M = L(Y, r)$$

- 説明: いま、金利 r が上がるとする。これにより貨幣需要が減る。貨幣供給が一定の下で、貨幣供給が均衡するためには、貨幣需要を増やす別の要因の働きが必要。それがGDPの増加である。
⇒貨幣市場均衡下では、 $r\uparrow$ のとき、 $Y\uparrow$ となる。

LM曲線・均衡の導出

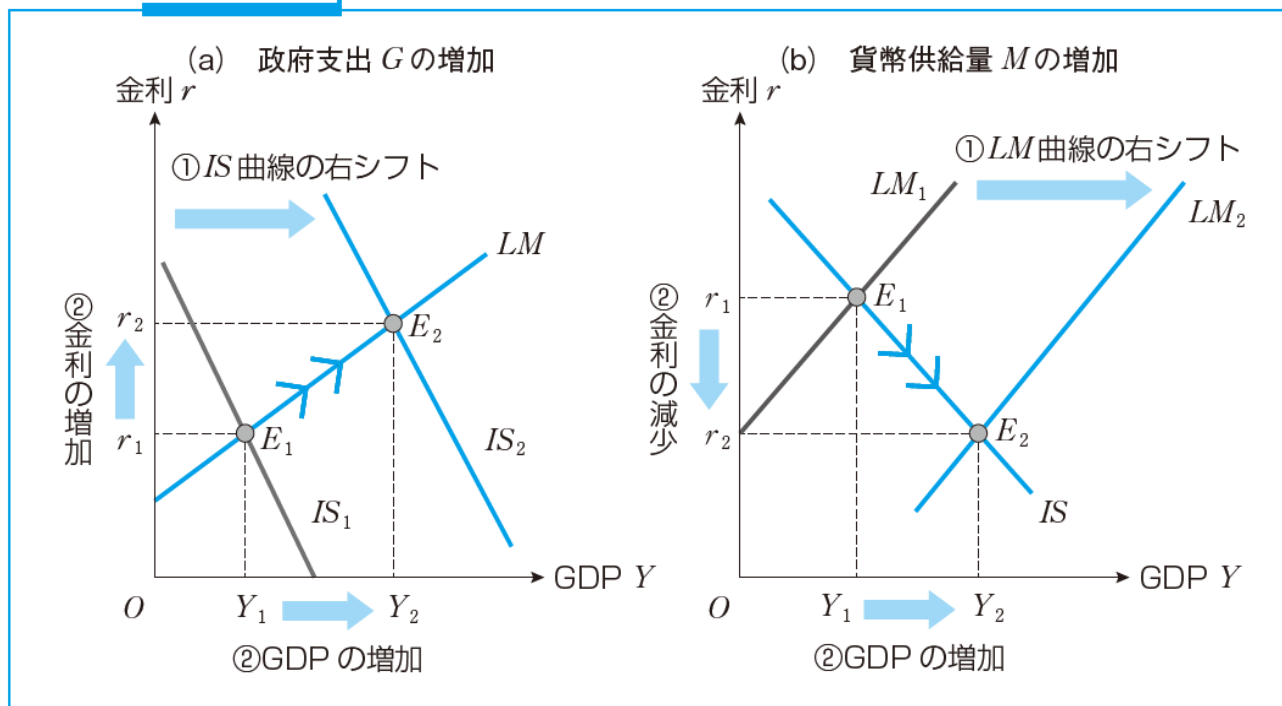
- 貨幣市場を均衡させるGDPと金利との関係は、 $Y - r$ 平面で右上がりの曲線(**LM曲線**)として表せる。
- $IS \cdot LM$ 曲線の交点：財・貨幣市場の**同時均衡**。



経済政策の効果

- 政府支出増： IS 曲線が右シフト。 $Y \uparrow$ 、 $r \uparrow$
- 貨幣供給量増： LM 曲線が右シフト。 $Y \uparrow$ 、 $r \downarrow$

CHART 図 6.16 $IS-LM$ 曲線を用いた経済政策の分析



p.183

金融政策の効果(まとめ)

POINT 6.10 IS – LM分析

- *IS* 曲線：財市場を均衡させるGDPと金利との負の関係を示す曲線
- *LM* 曲線：貨幣市場を均衡させるGDPと金利との正の関係を示す曲線

第6章のまとめ

1

- ・ マクロ経済の消費関数とは、消費をGDP の関数で表したものである。

2

- ・ 均衡GDP、均衡金利は財・貨幣市場の均衡により決まる。

3

- ・ 政府支出が1増えたときにGDPが増える量を政府支出乗数という。

4

- ・ 投資関数、そして貨幣需要関数はともに金利の減少関数である。

5

- ・ 貨幣供給量の増加は貨幣市場において金利を下げGDPを増やす。